

# ちよつとしい話

## ～ 人生色々～

20年10月20日

人生は様々、人夫々です。ただ何時も申しますように、懐妊すれば、命が宿ると言う事であり、そこに宿る命は当然の事ながら字の如く宿命を担っており、宿命の魂が植えつけられるのです。昔から、「親の因果が子に報い」と言われる様に、佛様の大好きな因縁因果の法則に従って誕生するのです。この法則を破る事は出来ません。ですから血と血を結ぶ大切な結婚は好き、嫌いの感情だけで決めるものでは無いと思います。人間としての血統を大切に守って行けたらと思います。人生は人が生まれると書きます。生まれるとスグ名前が付けられ人間として人生の一步を踏み出します。如何なる環境に生まれようとも一人一人に「佛性」が与えられています。佛性あるが故に運命を切り開く事が出来ます。私は佛性に逆らう事無く、人間として精進して頂きたいと思っています。と言いますのも人間とは字の如く、人の下に間と言う字がおさまっています。即ち、諸事全てに「間」が取れてこそ一人前に成れるのです。例えば「人と人の間や、先祖と自分の間、神や佛との間、親と子の間、夫婦の間、友達との間」と言う様な事です。この世の生活は佛様の教えの通り過去により・現在により・未来を求めます。言いかえれば昨日より今日、今日よりも明日に望みを託して行くのです。それは人間として皆共に生きて行く為にです。自己中心、我田引水にならない様に、他を排斥する事無く、お互いに助け助けられながら、尊い一生を過ごしていかなくては佛性を頂いて生まれてきた甲斐が御座りません。我々人間のイキザマは様々であり、如何なる生活を送ろうとも佛様の「阿吽」の教え、呼吸の法則通り「阿」で生まれ、「吽」で死ぬのです。又、死後の世界も様々です。お寺の山門に仁王様が見えますが口を大きく開けて見える方が「阿」の仁王様、口を閉じて見える方が「吽」の仁王様です。仁王様は生きている人間、死んでしまっている人間、両方の門番をして見えます。神社の狛犬も「阿吽」の姿になっています。何れに致しましても、我々は日々の生活を営む上で挨拶が大切です。しっかり頭を下げましょう。実るほど頭を下げる稲穂かな。重 重 善壽界善入院油掛地藏尊